

農業経営基盤を揺るがす害虫（カメムシ・クビアカツヤカミキリ）の 対策支援措置について

近畿部会提出
説明担当 橋本市

近年の異常気象とも言うべき暖冬・猛暑夏の影響を受けたカメムシの大量発生により柿・桃等の出荷量が減少し、優良商品の割合も大幅に減少している。また、新たに外来害虫被害が確認され始めたクビアカツヤカミキリでは、その被害樹木であるバラ科の生産果樹の梅・桃・李への被害が想像を超える速さで拡大している。

特にクビアカツヤカミキリに関しては、現在効果的な対処法が確立できておらず、被害樹木の伐採という対症療法が対策の中心であり、このままでは全国有数の生産果樹である梅やブランド品としての桃の生産に壊滅的な悪影響を及ぼしかねず、抜本的な対策と効果的な対処法の確立が急務である。

については全国すべての関連品目にかかわる生産農家の農業基盤安定のため、下記事項の早期対応を強く要望する。

記

- 1 越冬するカメムシの数を減らすため、防除対策に取り組む農業者の防除費用や忌避費用に対する補助メニューを整備すること。
- 2 クビアカツヤカミキリ対策として、効果的な防除方法の研究を行う事業者を支援し、早期に防除等対処法を確立すること。